

アイヌ生活文化再現マニュアル



アイヌ生活文化再現マニュアル

# 彫る

—小刀・山刀・盆—

## 発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の設立以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などにより記録し、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

今回は、木彫品のうち、「小刀・山刀・盆」の製作をマニュアル化しました。

今後より多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

# 目 次

はじめに

小刀・山刀・盆について  
道具

## 小刀を作る

各部名称	11
材料	12
粗取り	
鞘	14
接着	15
整形	
鞘	16
柄	16
鞘と柄を合わせる	
位置を決める	18
鞘口をくりぬく	18
整形	19
「桜の樹皮を巻き付ける溝」	19
文様を彫る	
「渦巻き文様」「扇型に広がる波状の文様」の粗彫り	20
「山型の文様の帯」	22
「渦巻き文様」「扇型に広がる波状の文様」の仕上げ	24
「波線」	26
「鱗文様」	27
桜の樹皮を巻く	29
刃を入れる	32
根付けを付ける	35
使い方	36
藤戸 幸夫さんのそのほかの作品	37

## 山刀を作る

各部名称	39
材料	40
※割り材の作り方	41
粗取り	
鞘	42
柄	44

接着	45
整形	
鞘	46
柄	48
鞘と柄を合わせる	50
文様を彫る	
「渦巻き文様」「括弧文様でくくった菱形」	51
「山型の文様の帯」	52
「鱗文様」	53
刃を入れる	54
使い方	56
川上 哲さんのそのほかの作品	57
<b>盆を作る</b>	
材料	59
盆の形を作る	60
文様を彫る	
型紙	62
筋彫り	63
「鱗文様」	64
「波状の文様」	65
「連続した括弧文様」	65
川上 哲さんのそのほかの作品	67
おわりに	68
参考文献	69

— 例 言 —

- ・本マニュアルでは、材料名などについては、日本語で表記し、川上哲氏、藤戸幸夫氏がアイヌ語を使用しているものに限って [ ] 内に、カタカナでアイヌ語を入れています。
- ・アイヌ語表記については「アコロイタク」(社団法人北海道ウタリ協会 企画・編集)に基づいています。

## はじめに

自然の恵みを利用してきたアイヌは、木を材料に用いて、調度用具・嗜好用具・儀礼用具など暮らしに必要な物の多くを自らの手で作っていました。

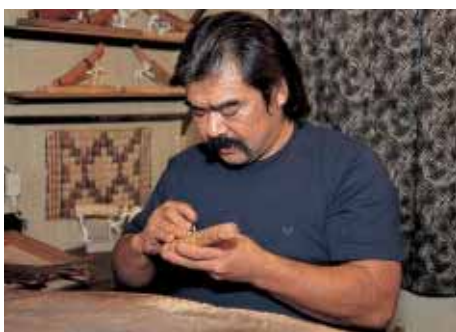
こうした木製品の多くは文様が彫刻されました。文様には、「渦巻き文様 [モレウ]」や「括弧文様 [アイウシ]」などを基本として様々な形があり、作り手が思いおもいに組み合わせで丹念に彫りあげました。それは男の技として今に伝えられてきました。

和人との交易が盛んになると、日常生活に欠かせなかった木彫品も交易品としての需要が高まってきました。

道具の種類が少なかった時代、文様は小刀1本で彫られたとも言われ、それを巧みに操る技術が磨かれました。現在では道具が豊富に揃うので、用途に応じて様々な道具を使い分けて製作されています。

本マニュアルでは、木彫品のうち、小刀 [マキリ]、山刀 [タシロ]、盆 [イタ] の作り方を紹介します。小刀を藤戸幸夫さん、山刀と盆を川上哲さんが製作します。

尚、二人とも独自の手法を織り交ぜているので、必ずしも伝統的な工法と一致するものではありません。



藤戸 幸夫

1949年（昭和24年）、北海道旭川で、木彫り職人だった父のもとに生まれる。

阿寒湖で木彫りを覚え、現在はアイヌ文様を彫った装飾品や小刀等を製作している。



川上 哲<sup>きとろ</sup>

1949年（昭和24年）生まれ。北海道旭川市在住。木彫り職人である父・寛さんに師事して、木彫製作を学ぶ。アイヌの伝統工芸と現代的な工芸品との融合をテーマに、様々な木彫品を製作。

木彫りのフクロウや装飾品、椅子などをはじめ、手がける作品の分野は幅広い。

## 小刀・山刀・盆について

### 小刀

小刀は、動物を解体する、魚をさばく、裁縫をする、木彫品を作るなど多目的に使われ、男女ともに、いつも腰からはき佩緒おびで提げていました。

この小刀は、刀身ときや鞘つかなどで構成されています。刃は交易で入手しましたが、鞘や柄は主に木で作られ、文様を施しました。鞘は、1本の木をくり抜いたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作りました。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮などを巻き付けて補強しました。

鞘や柄に鹿の角を利用した物もあります。鹿の角は煮て柔らかくしてから文様を彫りました。

かつてアイヌの男性は、結婚を申し込む時、相手の女性に文様を施した小刀を贈ったと言われています。彫刻ができるということは、生活で使う道具を作る技術を身につけた証でもあったのです。



「蝦夷人山越え図」平沢屏山 筆  
市立函館図書館蔵



小刀（左が鹿角を利用した物）  
（財）アイヌ民族博物館蔵

## 山刀

山刀は、木を伐ったり、薪を割ったり、家や舟の材料を採ったりするなど幅広い用途で使われました。腰の帯に差し、小刀とともに毎日の暮らしで使いましたが、狩りなどで山に入った時はこれで木を伐り、仮小屋を組み立てたりしました。

鞘は割った木を貼り合わせて作り、補強のために桜の樹皮を巻き付けました。鞘と柄にはそれぞれ文様を施しました。



山刀  
(財) アイヌ民族博物館蔵

「雙幅蝦夷人図・狩獵之図」  
雪好 筆  
市立函館図書館蔵



## 盆

盆は、食べ物を盛りつける食器のひとつとして使われました。文様は対称的に配置されたものが多く残っています。

アイヌの木彫品が和人の求めに応じて作られるようになったのは、江戸時代の後期からだと言われています。盆はそれらの中のひとつでした。



盆  
(財) アイヌ民族博物館蔵

## 道具

### ●ノミ・彫刻刀など

種類が細かく分かれていますが、次のように大別します。



丸ノミ

平ノミ

三角刀

丸刀

平刀

切り出し

### ●その他



先の曲がった刃物

ヤスリ



締め付け器具（小刀・山刀に使用）

このほかに紙ヤスリ、小刀・山刀の製作には<sup>きり</sup>錐・ドリルなどを使用します。

### ●作業台

材料が動くと刃が滑って逸れるのでたいへん危険です。川上さんは、材料を固定するために、押し当てられる窪みがある作業台を使っています。

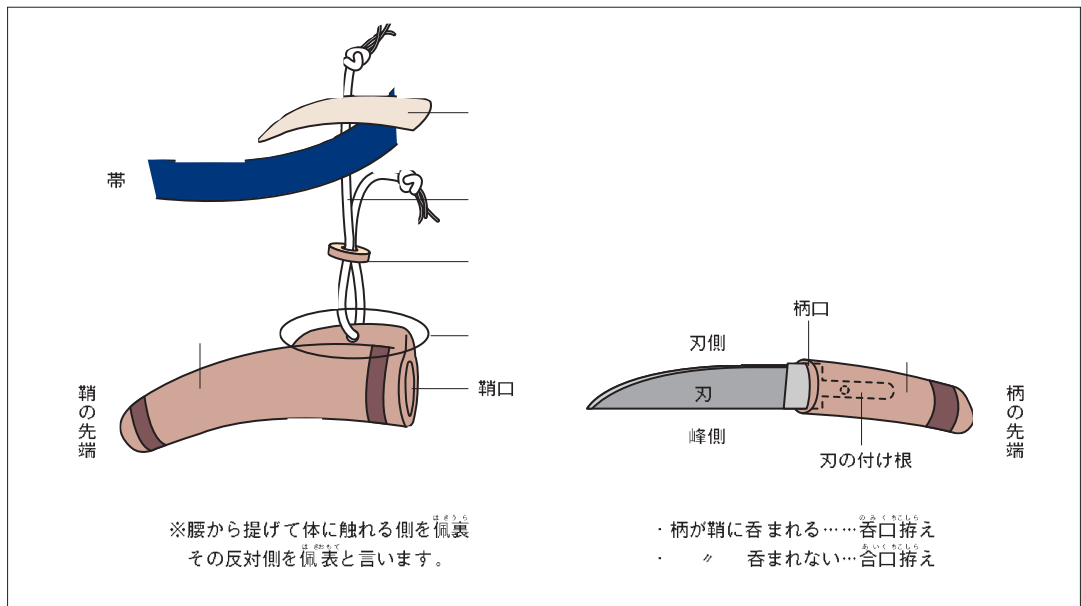


# 小刀を作る



## 各部名称

小刀の部位には決まった名称はありませんが、本マニュアルでは次のように呼びます。



## 材料

イタヤカエデ、イチイ、クルミなど硬い木を材料にします。直径15cm以上の丸太から芯を外して板を取り、半年から1年は室温で自然乾燥させます。



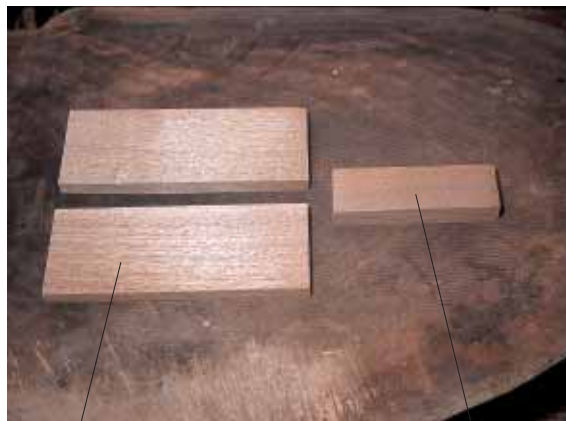
クルミの木



藤戸さんは、鞘を「くりぬき」で作るのを好みますが、今回は「貼り合わせ」で作ります。

「貼り合わせ」の場合は木を2枚に割ってそれを貼り合わせますが、「割り材」(41ページを参照)は無駄になる部分も多くなります。そこで藤戸さんは製材した板を使っています。

材料を取る時は、貼り合わせても合わせ目が判らなくなるように木目に注意します。鞘用に2枚、柄用に1枚の板を切りだし、表面を平らにしておきます。クルミは貼り合わせても馴染みやすい材料だと言います。



●鞘 縦20cm 横8cm 厚さ1cm×2枚

●柄 縦13cm 横4cm 厚さ2.3cm×1枚

(大きさに決まりはありませんが、今回製作した物の寸法です)

- 刃  
くきび
- 楔

用途に合わせた大きさ（銃刀法に留意してください）。

刃を柄に固定するために使います。できるだけ硬い木が適しているので今回はイタヤカエデを利用します。材料の切れ端で構いません。

- 埋木  
うめき

刃を柄に固定して柄口を塞ぐために使います。柄と同じ材料で切れ端を利用します。

- 桜の樹皮

「貼り合わせ」の補強のために巻き付けますが、現在では接着剤が強いので、藤戸さんは飾りとして使用します。樹皮を採取する時、幹を一回り剥ぐと、その木は枯れてしまうので注意が必要です。



- 根付  
ねつけ
- 緒締め  
おじ
- 佩緒  
いさぐ

鹿の角、動物の骨、海獣の牙、木など。

根付と同じ材料。穴の空いた古銭を束にして使うこともあります。

植物の内皮を編んだ物、鹿皮など。今回は、三つ編みにした鹿皮。



ツリバナ（エリマキ）で作った根付け

- 木工用接着剤 接着剤のない時代は、魚の皮から作った膠にかわなどが使われました。

## 粗取り

### 鞘

- ① 型を当てて2枚の形が合うようにして平ノミで鞘の輪郭を出します。長さは後で調節するので、作りたい寸法よりも長めにしておきます。



- ② 刃を収納する部分を2枚の板に均等に彫り込みます。刃を当てて、その大きさに合わせますが、先端に1 cmぐらいの余裕を作ります。三角刀で縁取りをしてから、平刀で深さを整えます。鞘を仮に合わせて刃を入れた時、滑らかに出し入れできる深さとします。



- ③ 鞘口から2 cm程のところに丸刀で溝を彫り、柄を呑み込む部分の位置を決めます。



## 接着

- ① 木工用の接着剤を片方の板にだけ塗って貼り合わせ、締め付けて乾燥させます。藤戸さんは、均等に力をかけるために自作した器具を使用し、接着剤がにじみ出るまで締め付け、1日は乾かします。



- ② 乾燥後、引き回し鋸を使って内側ににじみ出た接着剤をかき出します。



## 整形

### 鞘

- ① 平ノミや平刀、切り出しなどを使って角を落として丸みを付けます。この段階でも少し長めにしておき、表面に文様を彫るので滑らかに仕上げます。



### 柄

- ① 柄は1本の木を削って作ります。鞘に呑み込まれるので、それを見越した反り具合として、この段階では少し長めにしておきます。



- ② 柄口側を握り部分よりも1mmほど細くして鞘に吞まれる部分を作ります。長さは2cmほどで、これは鞘の内部に丸刀で印を付けた（15ページ参照）部分までの距離です。



- ③ 柄に刃の付け根を収める穴をあけます。錐やドリルで穴をあけ、ヤスリで形を整えます。穴は刃を出し入れできる幅にしておきます。このような道具がない時代は、焼いた鉄を押し当ててくりぬいたとも言われています。



## 鞘と柄を合わせる

### 位置を決める

- ① 鞘口は柄に合わせてくりぬきます。柄に刃を入れてから鞘に収め、鞘口に印を付けます。柄から刃が抜ける場合は、柄口に木くずを詰めて仮止めします。



### 鞘口をくりぬく

- ① 先の曲がった刃物を使ってくりぬきます。これは、丸い部分を彫るために藤戸さんが自作した物です。口を広げ過ぎないように、ときどき柄を差し込んで大きさを確認しながら調整します。仕上げに切り出しで形を整えておきます。



## 整形

- ① 鞘と柄の収まりが良くなったら、それぞれの長さを決め、バランス良く反りを調整します。平ノミで長さを決め、切り出しで表面を滑らかに仕上げます。



## 「桜の樹皮を巻き付ける溝」

- ① 桜の樹皮を巻き付ける溝を、三角刀で縁取りをして、平刀で1mmぐらいの深さで彫り込みます。



- ② 鞘口側の溝は、「佩緒を括る部分」の付け根を貫通させ、佩緒を通す穴を丸刀であけておきます。



## 文様を彫る

### 「渦巻き文様」「扇型に広がる波状の文様」の粗彫り

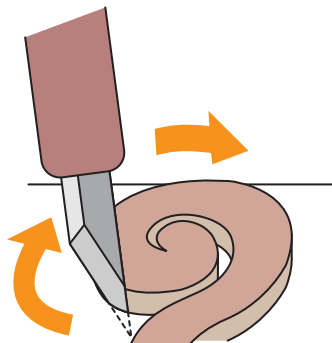
- ① 三角刀で、基本となる「渦巻き文様」を粗彫りして、周りを1～2mmほど彫り下げます。今回は、佩表、佩裏、それぞれ対称に文様を施します。



- ② 「渦巻き」の隅に「扇型に広がる波状の文様」を彫ります。だいたいの形を出しておいて、周りをさらに1～2mmほど彫り下げます。「渦巻き」の中も扇型部と同じ高さにします。

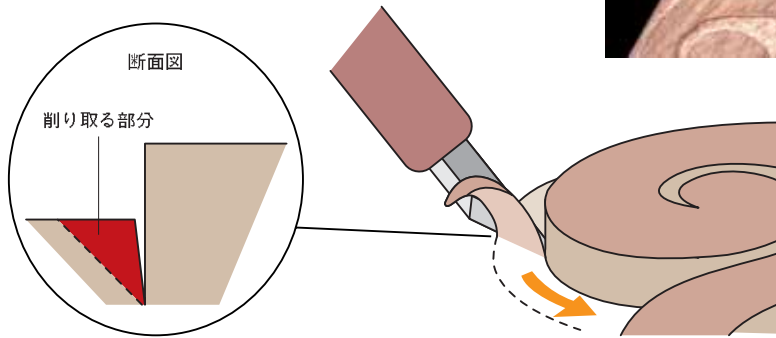


- ③ 「渦巻き」の周りに切り出しを入れて輪郭に深みを付けます。

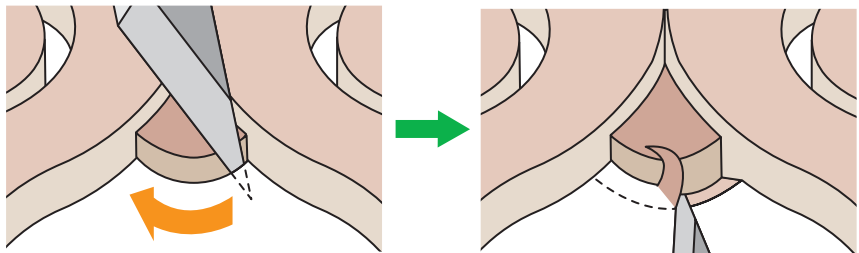


- ④ 切り出しを入れた部分の面を削いで、「渦巻き」を浮き上がらせます。

藤戸さんは、三角刀で粗彫りをして、切り出しで深みを付けるという工程で文様を彫るのを基本としています。



- ⑤ 扇型部の周りにも切り出しで深みを付けてから、外側の面を削いで浮き上がらせます。彫っているうちに汚れが付いてしまうので、この段階では完全に形を整えません。

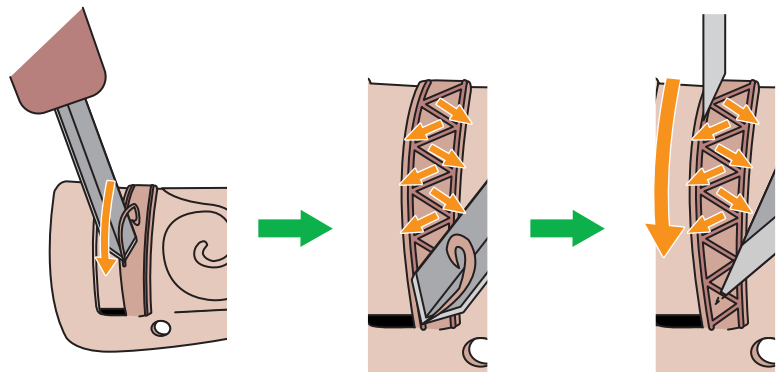


- ⑥ 「佩き緒を括る部分」にも段差を付けます。

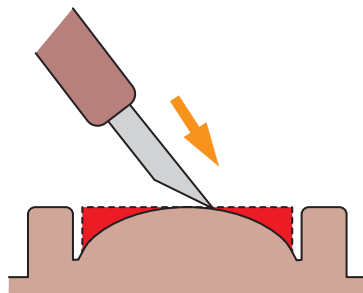


## 「山型の文様の帯」

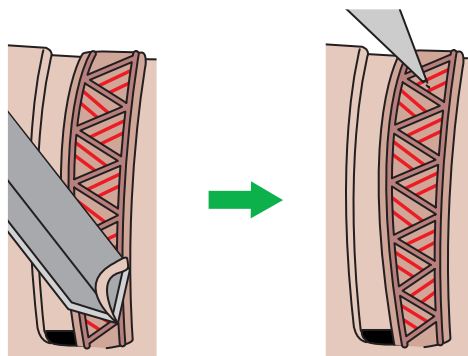
- ① 桜の樹皮を巻く溝の内側に「山型の文様の帯」を作ります。三角刀で帯の縁に線を付けてから、山型の線を付けます。三角刀で付けた筋に切り出しを入れ深みを付けます。



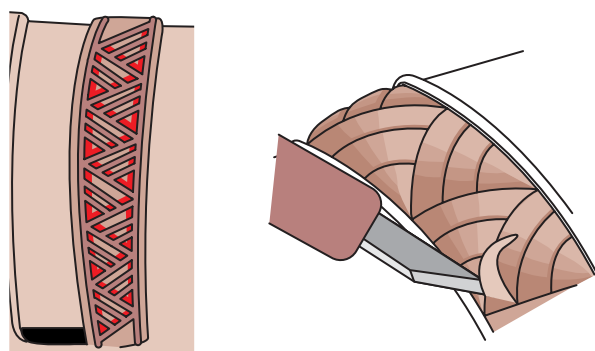
- ② 帯の縁の内側の面を削いで丸みを付けます。



- ③ 「山型の線」の中に三角刀で直線を2本付け、切り出しで中の直線に深みを付けます。



- ④ 直線の両端の面を削いで丸みを付けます。木目の逆から刃を入れるとはがれ落ちてしまうので注意を払います。



- ⑤ 佩表と佩裏の合わせ目には違う形の「山型の文様」を彫りました。

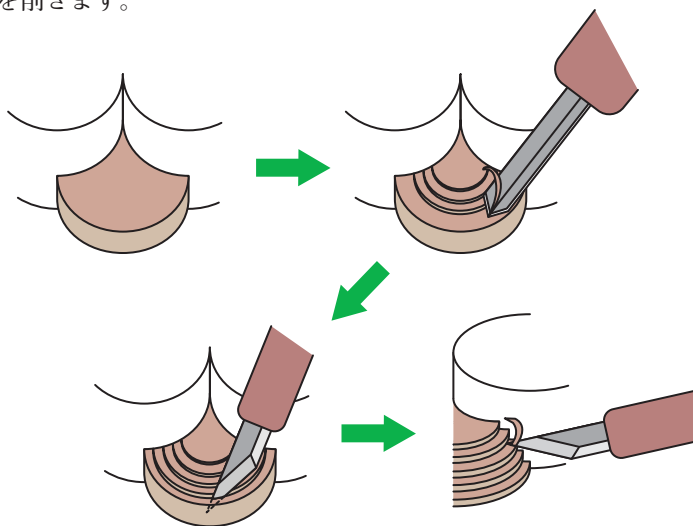


## 「渦巻き文様」「扇型に広がる波状の文様」の仕上げ

- ① 「渦巻き」の角を平刀で落としてから、三角刀で縁に段差を付けます。切り出しで段差の縁に深みを付け、平刀で縁の面を削ぎます。



- ② 扇型部に5段階になった「波状の文様」を彫ります。三角刀で粗彫りをしてから切り出しで深みを付け、切り出しで面を削ぎます。



- ③ 「山型の文様」の縁や「渦巻き」の表面も丸く仕上げます。白木の作品にする場合は、ここから手袋をはめるなどして汚れないように気をつけます。

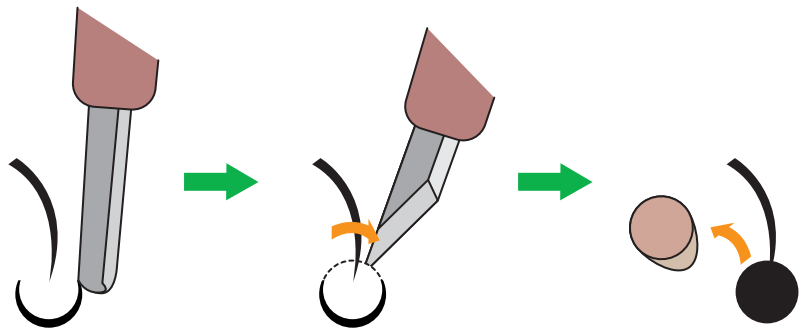


## 「波線」

- ① 「渦巻き」と鞘の両端に「波線」を入れます。  
三角刀で筋を付け、切り出しで深みを付けます。  
線が細いので面は削ぎません。



- ② 「波線」の止めの部分は、丸刀を入れてから切り出しでくり抜いて丸く仕上げます。



「<sup>うろこ</sup>鱗文様」

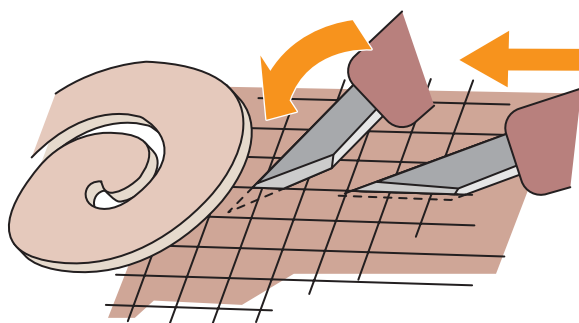
- ① 一番低い面に「鱗文様」を彫ります。切り出しの刃を押して、鞘の合わせ目に対して斜めに線を付けます。



- ② 刃を引いて線に深みを付けます。



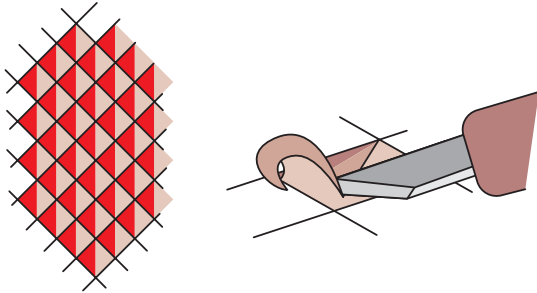
- ③ 縁にはもう一度刃を押し込みます。



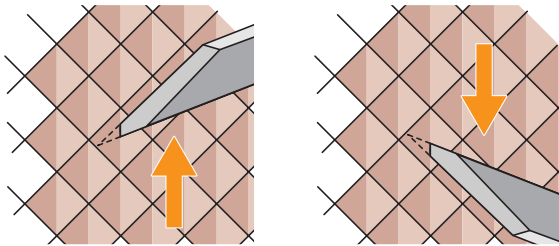
- ④ 同じことを繰り返して対角線を引きます。



- ⑤ 線で囲まれた菱形の半分側だけ、斜めに切り出しを入れてすくい取ります。



- ⑥ 隅に削り残しがないように、両側から刃を入れておきます。



- ⑦ これで文様はできあがりです。柄は鞘に合わせて彫りますが、鞘よりも細いので彫りの深さを半分程度にとどめます。



## 桜の樹皮を巻く

- ① 桜の樹皮を鞘に2本、柄に1本巻き付けます。  
表面が滑らかな部分を選んで切り取ります。



- ② 切り出しの刃をやや手前に倒して立て、手前に引いて磨きます。樹皮の裏は巻くと隠れるので凹凸が無くなる程度で構いません。



- ③ 樹皮の表は、深い赤紫色のつやが出るまで磨きます。



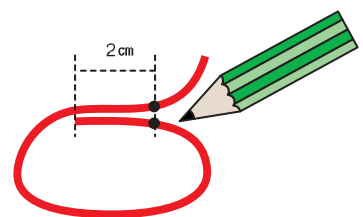
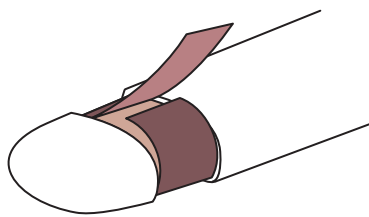
- ④ 鞘と柄に彫った溝の幅に合わせて切り、一卷きしてもかなり余裕のある長さにしておきます。



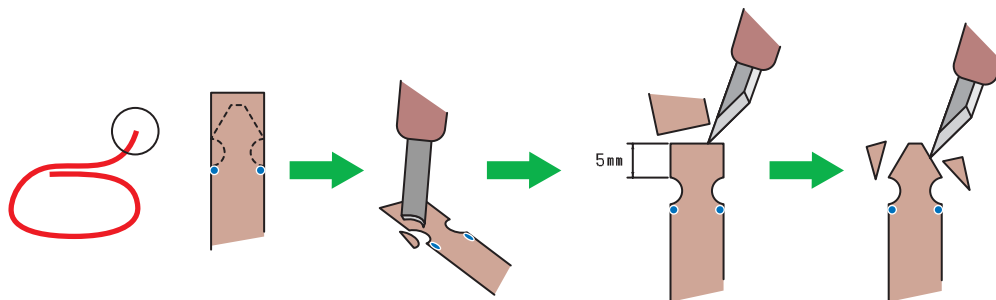
- ⑤ ぬるま湯に1日は漬けておき、水を吸わせます。樹皮が丸くなると使えます。



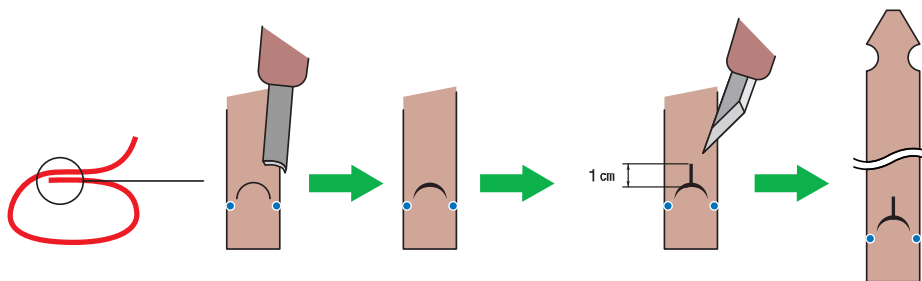
- ⑥ 水から取り出したら縮み始めるので、手際よく作業を進めます。3本それぞれ鞘や柄の溝に一度巻き付けて、2センチほど重なる部分に印を付けます。



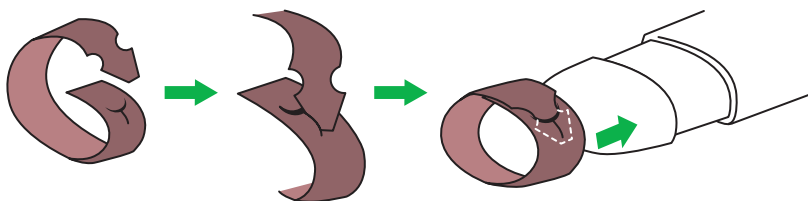
- ⑦ 巻いたとき上になるほうには、印よりも先端側にくびれを作ります。印に丸刀の端を合わせて両側を切り取り、先を5ミリほど残して切り取ります。さらに、くびれの端から先端側を細くします。



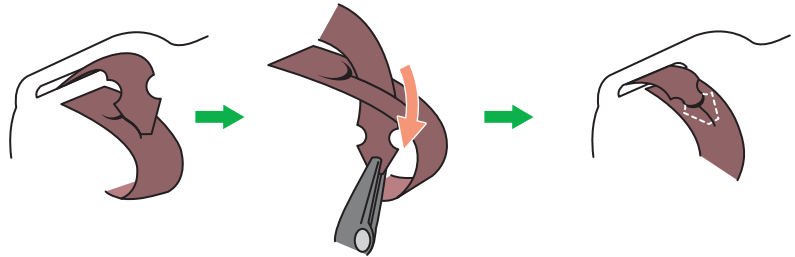
- ⑧ 巻いたとき下になるほうには、印の延長上に丸刀の端を合わせて、中央を三日月型にくりぬきます。そこから1センチほど直線の切り込みを入れます。



- ⑨ 鞘の先端と柄には輪を作ってからはめます。巻いてからとめるよりも付けやすいからです。止めの部分は佩き裏になるようにします。



- ⑩ 鞘口側には輪をはめられないので鞘に巻いてからとめます。くびれの片側を切り込みに入れ、裏側から先を引っ張ってはめます。樹皮はやや緩んでいますが、乾燥すると縮まります。



## 刃を入れる

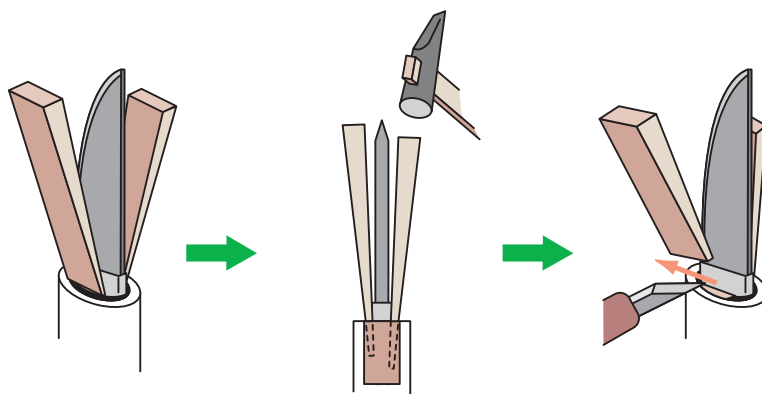
- ① 刃は「楔」で内側からとめるので、柄口の内部を整形しておきます。「楔」を刃の付け根の穴に入れて金槌で叩き込み、穴の大きさに合わせて切ります。



- ② 接着剤を柄口に入れておき、刃を差し入れます。刃を入れたら刃の先端を作業台に当て、柄の先端を手で叩いてしっかりと収めます。

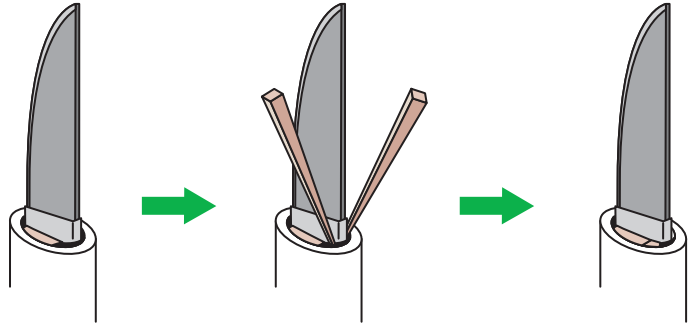


- ③ 柄口の間隙に埋木をします。柄と同じ材料を使えば、乾燥したあと目立たなくなります。柄口の幅よりも少し狭い木を2枚作り、尖らせた先端に接着剤をつけて柄口の両側に差し入れます。さらに金槌で叩き入れ余分な埋木を切り取ります。



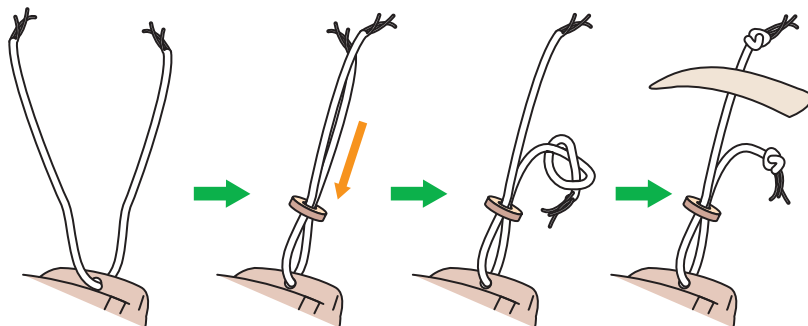
- ④ 細い埋木を隙間に入れ、これでも隙間がある場合には木くずを埋め込み、三角刀で表面を整形します。

埋木を入れると柄口が広がるので、鞘に入れて収まりをみながら少しずつ削って調整します。



## 根付けを付ける

- ① 鞘に佩緒を通してから折り返し、紐の両端を緒締めに通します。紐の片方はそのまま結び目を作り、もう片方は根付けを通してから結び目を作ります。

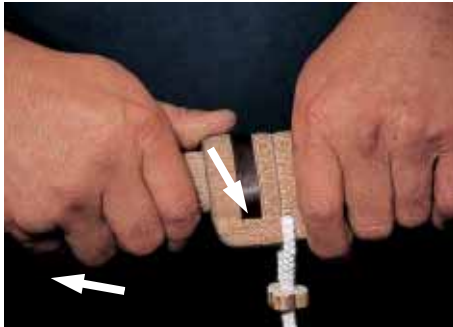


これで完成です。藤戸さんは小刀の表面に木工用の仕上げ剤を塗ります。



## 使い方

鞘から刃を抜く時、柄だけを持って引っ張ると、勢いよく抜けてたいへん危険です。必ず親指を鞘にあて、残りの指で絞るようにして抜きます。



緒締めを上下させると佩き緒の長さを調節できます。



## 藤戸 幸夫さんのそのほかの作品



クルミ「貼り合わせ」



クルミ「貼り合わせ」



イタヤカエデ「くりぬぎ」  
この木は、きめの細かさが特徴です。



イチイ（オンコ）「くりぬぎ」  
この木は、はっきりとした木目が特徴です。  
藤戸さんが「くりぬぎ」を好むのは、木目を透切れさせたくないからです。



イチイ「くりぬぎ」



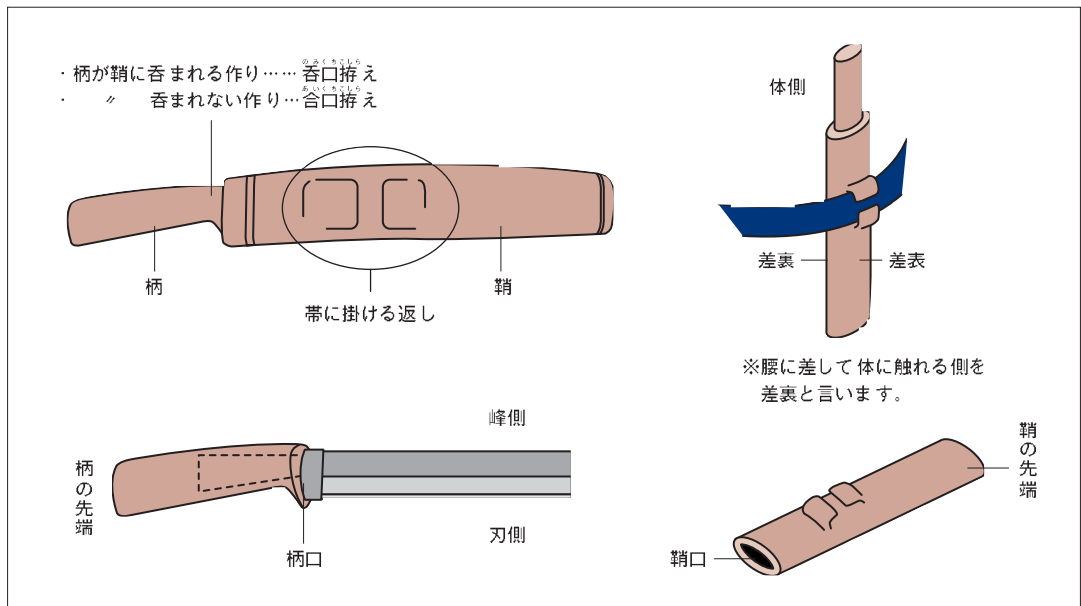
「くりぬぎ」の場合は、佩裏、峰側、先端の何れかに  
木屑の掻出しと水抜き用の穴をあけます。

# 山刀を作る



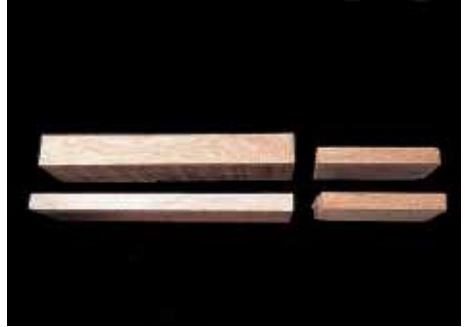
## 各部名称

山刀の部位には決まった名称がありませんが、本マニュアルでは次のように呼びます。



## 材料

クルミ、イタヤカエデなどを材料にします。川上さんは、鞘と柄、いずれも製材した2枚の板を貼り合わせて作ります。



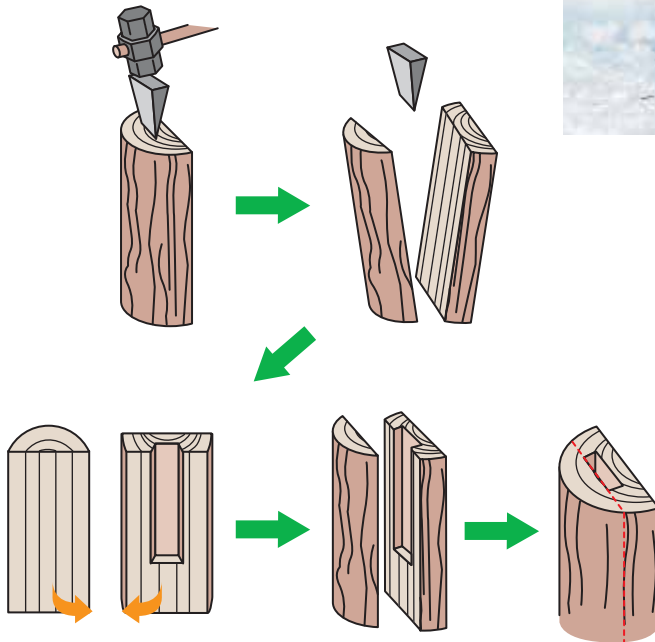
クルミ

- 鞘 縦30cm 横8cm 厚さ3cm×1枚 縦30cm 横8cm 厚さ2cm×1枚
- 柄 縦15cm 横7.5cm 厚さ2cm×2枚  
(大きさに決まりはありませんが、今回製作した物の寸法です)
- 刃 用途に合わせた大きさ (銃刀法に留意してください)。
- 目釘 刃を柄に固定するために使います。硬い材質の木、竹、金属などを用います。
- 柄口にはめ込む金具 これは直径3.5cmのステンレスのパイプを叩いて楕円形にした物です。
- 木工用接着剤



## ※割り材の作り方

かつては小刀や山刀の拵えを貼り合わせて作る場合は、木を2枚に割った「割り材」を使用しました。「割り材」ならば貼り合わせても木目がつながって、合わせ目が判りにくくなります。ただし、この方法は無駄になる部分が多くなるので、川上さんも藤戸さんも、1本の木からできるだけ多くの材料を取れるように、製材した板を使って木目が合って見える工夫を施しています。



## 粗取り

### 鞘

① 2枚の板を合わせた位置に印を付けます。



② 貼り合わせ面に刃を当てて型を取っておきます。



③ 「帯に掛ける返し」の位置を決め、ノミが入りやすくなるように鋸を入れます。



- ④ 「返し」以外は大きく削り取るので周りにも鋸を入れておきます。



- ⑤ 差表側の板に刃を収める部分をくり抜きます。三角刀で縁取りをして平刀で彫り下げます。



- ⑥ 水抜きやゴミをかき出すための穴も彫っておきます。



## 柄

- ① 差表側の板に刃の付け根を当てて型を取ります。付け根は、外側から目釘を打って留めるので穴の位置も決めておきます。



- ② 金属の目釘を使う場合は差裏側の板に、木材を使う場合は裏表の板に穴をあけます。



- ③ 付け根だけでは柄がもたないので、刃の縁を3ミリほど柄に食い込ませて押さえます。川上さんは呑口拵えにしますので、刃を収める部分はそれを見越して彫っておきます。



## 接着

- ① 接着剤で、鞘と柄、それぞれ貼り合わせてから締め付け、1日は乾燥させます。寒いと接着剤が凍り、暑いと波打つので室温を保ちます。



製材した板でも材料の取り方を工夫すれば木目がつながって見えます。



## 整形

### 鞘

- ① 「返し」を残して周りを彫り下げます。角を落として刃を取める部分が中心になるように裏表均等に彫ります。



川上さんは彫り出して作りますが、「返し」だけを別にして鞘に組み込む方法もあります。



- ② 「返し」の側面に穴をあけ、引き回し鋸を入れて隙間を作ります。



- ③ 「返し」の角を丸めて先を細くし、先に向かって少しずつ薄くします。山刀は重いので「返し」は1つでも帯に留まりますが、今回、両側から帯を挟むように「返し」を作ったのは、刃を抜く時や屈んだ時に鞘が上に抜けるのを防ぐためです。



## 柄

- ① 反りを付けるので、丸ノミでくびれの深さを決めてから平ノミで削ります。柄は、使う人の手に合わせて持ちやすい形にします。山刀は合口拵えが多かったと言いますが、川上さんは、山歩きの経験から前屈みになっても刃が抜けない呑口拵えで作ります。



- ② ステンレスのパイプを潰した金具を柄口にはめ、それを吞まれる部分とします。重い刃を支える柄口を補強する目的も兼ねています。



- ③ 金具の大きさに合わせて柄口側を削ります。平刀で握りとの境目を決め、鞘と合わせた時に隙間ができないように三角刀で直角に落とします。金具を当ててみながら少しずつ彫り下げます。



- ④ 金具の収まりは少しきつめにしておき、金槌で叩いてはめます。

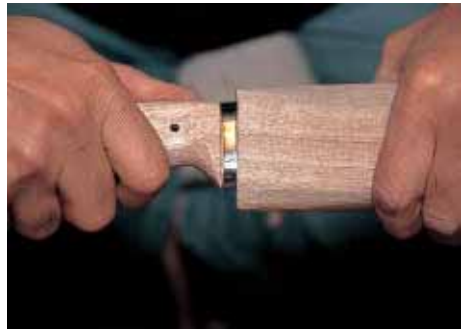


## 鞘と柄を合わせる

- ① 柄を鞘口に合わせて印をつけます。



- ② 川上さんは丸刀を使ってくりぬきます。削りすぎないように、ときどき柄を当てて口の大きさを確かめながら削り、くりぬいたあと引き回し鋸で木くずをかき出しておきます。



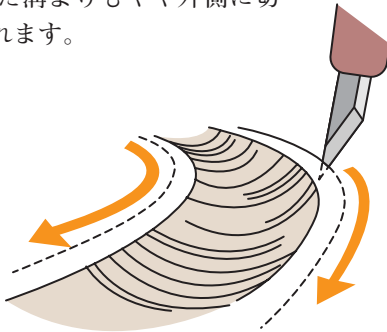
## 文様を彫る

### 「渦巻き文様」「括弧文様でくくった菱形」

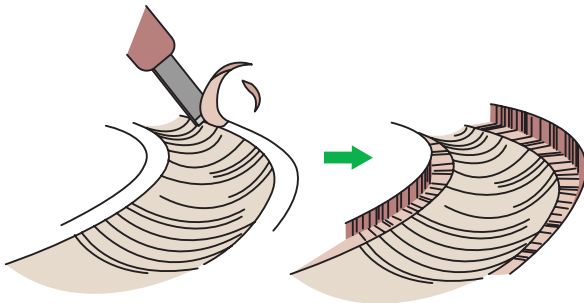
- ① 「渦巻き」と「括弧文様でくくった菱形」を組み合わせた文様の内側を丸刀でくりぬきます。山刀の文様は差表にしか彫らない場合も多かったと言いますが、川上さんは差裏にも対称に彫ります。鞘も柄も同じ要領で彫ります。



- ② くりぬいた溝よりもやや外側に切り出しを入れます。



- ③ 切り出しの線とくりぬいた溝との間の面を削ぎます。中をくりぬく前に、この工程を先に行っても構いません。

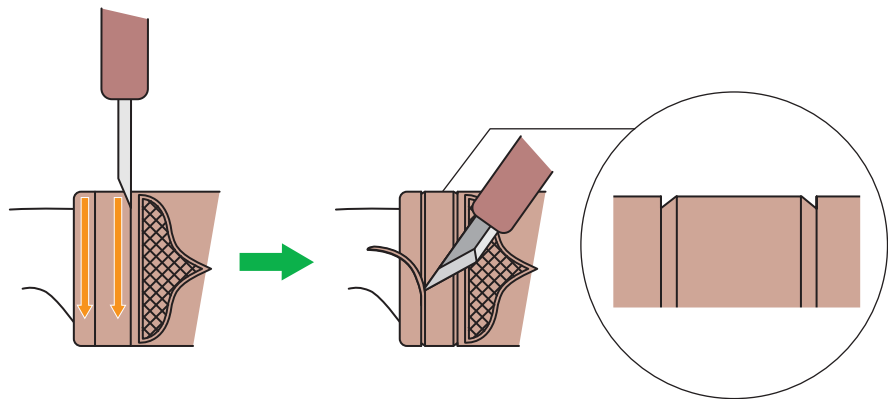


- ④ 「返し」にも「渦巻き」と「菱形」を組み合わせた文様を筋彫りします。

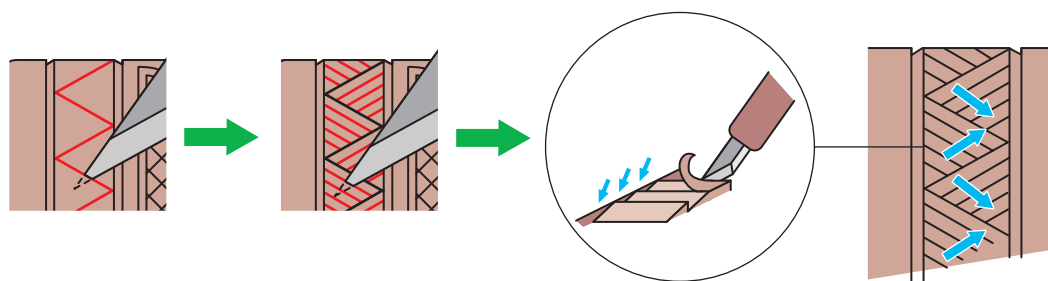


### 「山型の文様の帯」

- ① 鞘の両端に「山型の文様の帯」を彫ります。帯の両側に切り出しを入れ、内側の面を削ぎます。



- ② 山型の線を引いてから中に4本の直線を引き、切り出しを入れます。線の間を一方に向かって斜めに削ぎ落とします。



## 「鱗文様」

- ① 「括弧文様でくくった菱形」の中に「鱗文様」を入れます。



## 刃を入れる

- ① 刃を入れて目釘を打ちます。目釘は穴よりもやや大きめに作っておき、当て木をして金槌で打ち込みこます。余分な目釘は削り取って柄の表面を整形し、最後に120～200番の紙ヤスリを全体に軽くかけます。



トクサ（砥草）  
紙ヤスリが無い時代には、  
茎の表面がザラザラしている  
トクサを代わりに使いました。



これで完成です。川上さんは、表面に木工用の仕上げ剤を塗ります。



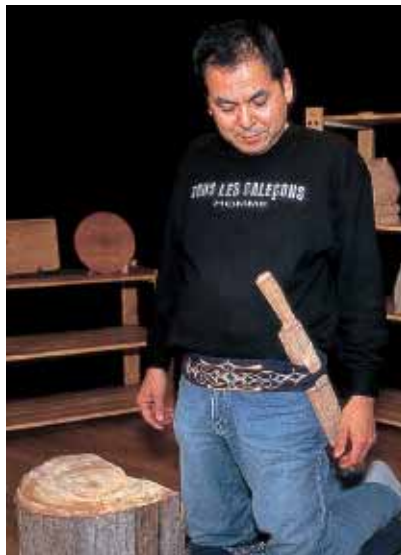
差表



差裏

## 使い方

抜き方は、小刀と同じようにして（36ページ参照）  
勢いよく抜けないように気をつけます。



腰の帯に差します。山刀の重みで「返し」が帯に  
掛かり、屈んで鞘の先端が地面に触れても、逆向きの  
返しがあるので抜けません。



柄口に金属をはめたので鞘との取まりが良くな  
り、鞘を下に向けても抜け落ちません。



## 川上 哲さんのそのほかの作品



クルミ

これは、長い年月、土の中に埋まって色が黒くなった「埋もれ木」という材料です。



山刀には、先の尖った刃を使うのが主流でした。



クルミ



この山刀の刃は金属の目釘と金具で留めています。  
柄は鞘に呑まれないつくりです。

# 盆を作る



## 材料

クルミのほか、シナ、カツラなどやわらかい木を材料にします。

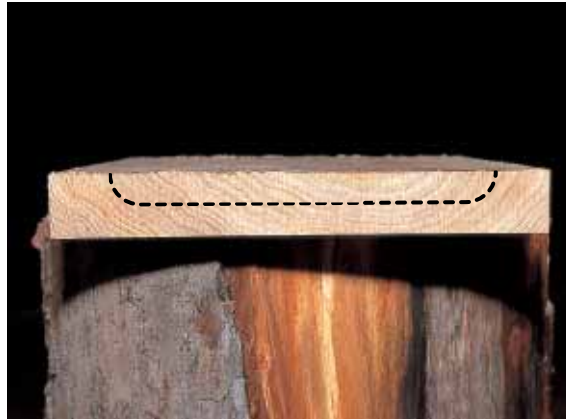
年輪に対して平行に取った板目板いためいたを使います。川上さんは、水分を2%以下まで落とした材料を使います。



縦24cm 横32cm 厚さ3cm

(大きさに決まりはありませんが、今回製作した物の寸法です)

木材の芯側を木裏<sup>きうら</sup>、樹皮側を木表<sup>きおもて</sup>と言い、盆の場合は木裏に窪みを彫ります。板は木表側に反



## 盆の形を作る

① 鋸で角を落として平ノミで形を整えます。



② 縁を残して内側を厚さ3 cmのうち2 cm程度くりぬきます。丸ノミで深さを付け、平ノミで均し、これを3～5回繰り返して深さを決めます。



- ③ 反対側の面の縁を薄くします。厚みの半分ぐらいから内側に向かって斜めに面を落として表面に丸みをつけます。



- ④ 盆の縁も形を整えます。刃を左右に振るように削ると、削りすぎを防げます。



盆はできるだけ表面を平らに仕上げますが、川上さんは刃跡を活かしておくのを好みます。長い年月が経つと、光の反射で角度によって盆の表情が変わると言います。



木裏側

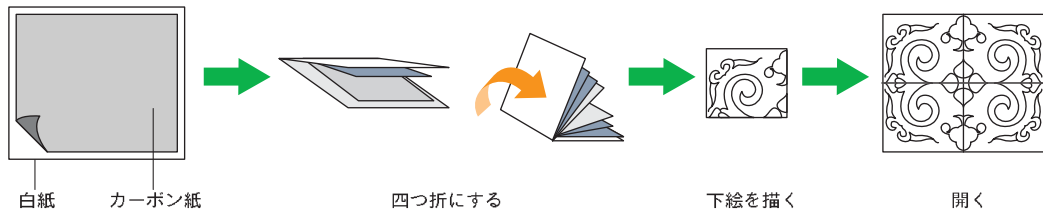


木表側

## 文様を彫る

### 型紙

- ① 文様を対称に配置する工夫があります。型紙にカーボン紙を挟んで四つ折りにして、文様を描いて開くと天地左右対称になります。型紙の線が多くなると、どこが筋なのか判らなくなり、盆の表面も黒く汚れてしまうので、基本的な筋だけにとどめておきます。



- ② 型紙の下にカーボンを挟んで、型紙をテープなどで固定して線をなぞります。かつては、いろりの炭を使って下絵を描いたとも、下絵なしで描いたとも言われています。



## 筋彫り

- ① 三角刀で一度に彫る作品も多いと言いますが、川上さんは切り出しを入れることにこだわっています。彫りが深くなり立体感が出るからです。刃は少し外側に倒し、右手で方向を操って左手の親指で押すようにして動かし、線の上に深さ3mmぐらいの切り込みを入れます。



- ② 切り込みの内側の面を2～3mmの幅で削ぎます。隅には彫り残しができやすいので、切り出しを入念に入れます。



筋彫り1本目

- ③ 同じ要領で筋の内側に、もう1本の筋を彫ります。円を描く時は、手ではなく盆を動かして刃は常に操りやすい位置を保ちます。



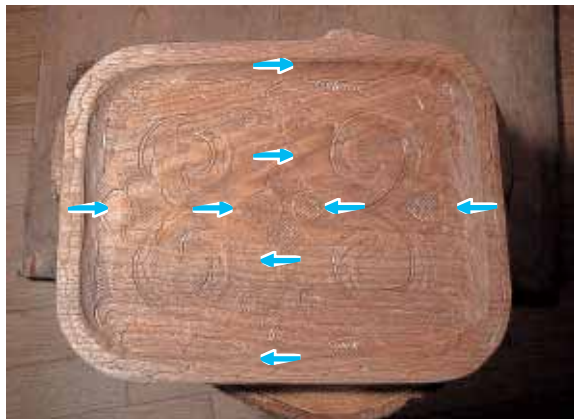
筋彫り2本目

- ④ 「渦巻き文様」の内側を丸刀でくり抜き、立体感を出します。



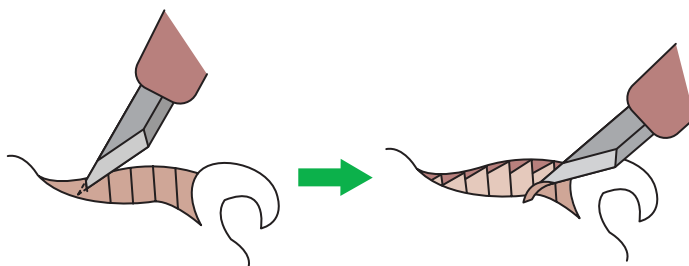
### 「鱗文様」

「花びら型の文様」の中に「鱗文様」を彫ります。川上さんは、盆の文様には面の削ぎ方に決まりがあると年長者から教わりました。鱗の向きは上下左右で方向を変えます。



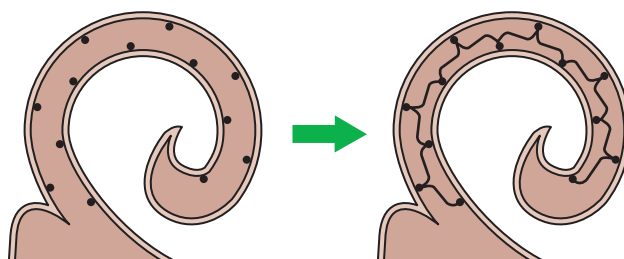
## 「波状の文様」

「括弧文様で括られた細長い三角形」の中に「波状の文様」を彫ります。切り出しを入れた線の間を一方に向かって斜めに削ぎます。

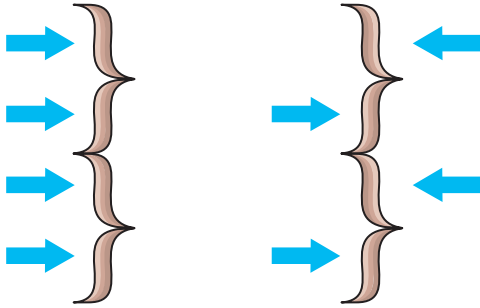


## 「連続した括弧文様」

「渦巻き」の中と盆の縁に「連続した括弧文様」を彫ります。この文様は、頂点を決めてから線を引くと幅を均等にしやすいです。切り出しを入れてから面を削ぎます。



面は互い違いに削ぐ方法もあります。

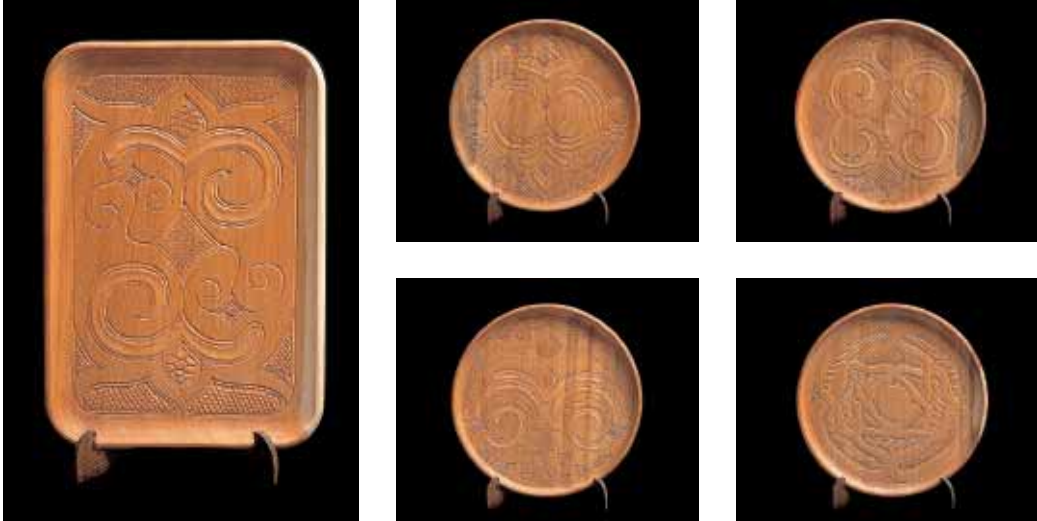


これで完成です。川上さんは、盆の仕上げ剤にはクルミ油が良いと言います。



## 川上 哲さんのそのほかの作品

カツラ



クルミ



## おわりに

川上さんは、「基本に忠実に復元しているが、現代風にアレンジもしている。多くの人がアイヌ文化に親しんでくれれば」と、初心者向けに講習会を開くなど文化の普及活動に尽力しています。

藤戸さんは、「昔の人は道具の種類が少なかったのにすばらしい作品を作った。昔の人にはかなわないが、今は良い道具があるので少しでも良いものを作りたい」と、極限まで緻密な文様を彫ることに挑戦し続けています。

古くからアイヌの男性は、腕を振るって木彫品を製作してきました。男性の心が刻まれたとも言える文様は、アイヌが道具や器を大切に使用していたことを教えてくれます。



## アイヌ工芸に関する参考文献

- アイヌ文化振興・研究推進機構編
  - 1998：『アイヌの美・彫る—清野謙次コレクションを中心に』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
  - 2000：『収藏品目録』1 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
  - ：『馬場・児玉コレクションにみる 北の民 アイヌの世界』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- アイヌ民族博物館編
  - 1989、1991：『児玉資料目録Ⅰ』『児玉資料目録Ⅱ』故児玉作左衛門北海道大学名誉教授収集資料目録 財団法人アイヌ民族博物館
  - 1992：『田中忠三郎コレクション目録』財団法人アイヌ民族博物館
  - 1996：『樺太アイヌ—児玉コレクション—』財団法人設立20周年記念・第11回企画展 財団法人アイヌ民族博物館
- 青森市歴史民俗展示館「稽古館」編
  - 2002：『自然と共存したアイヌの人々』青森市歴史民俗展示館「稽古館」
- 伊藤 務編
  - 2001：『マキリ図録—アイヌの工芸世界』網走市立郷土博物館友の会
  - 2002：『民具図録—アイヌの工芸世界』マキリミュージアム
- SPb-アイヌプロジェクト調査団編
  - 1998：『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵 アイヌ資料目録』草風館
- 大阪府立近つ飛鳥博物館編
  - 1997：『北の列島文化—清野謙次コレクションから—』大阪府立近つ飛鳥博物館図録10 大阪府立近つ飛鳥博物館
- 萱野 茂
  - 1978：『アイヌの民具』すずさわ書店
- 萱野 茂（監） 横山孝雄・知里むつみ（編）
  - 1995：『アイヌ民族写真・絵画集成』3 文様 日本図書センター
- 金田一京助、杉山寿栄男
  - 1993 [1942]：『アイヌ芸術』北海道出版企画センター
- 河野本道編
  - 1979：『北方の民具2』北海道ライブラリー9 北海道出版企画センター
- 国立民族学博物館編
  - 1993：『アイヌモシリ—民族文様から見たアイヌの世界—』財団法人千里文化財団
- 佐々木利和
  - 2001：『アイヌ文化誌ノート』吉川弘文館
- 佐々木利和編
  - 1995：『アイヌの工芸』日本の美術354 至文堂
- 市立函館博物館編
  - 1987：『児玉コレクション目録』Ⅱ アイヌ民族資料編 市立函館博物館
- 杉山寿栄男
  - 1992 [1926]：『アイヌ文様』北海道出版企画センター
- 東京国立博物館編
  - 1992：『東京国立博物館図版目録』アイヌ民族資料篇 東京美術

●北海道ウタリ協会編

1994：『ピリカ ノカ PIRKA NOKA —アイヌの文様から見た民族の心—』 世界の先住民の国際10年記念特別展 社団法人北海道ウタリ協会

●四辻一郎編

1981：『アイヌの文様』 笠倉出版社

工芸品を展示・収蔵している施設

工芸品を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

北海道内

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ●財団法人アイヌ民族博物館       | 白老町若草町2-3-4   |
| ●旭川市博物館             | 旭川市神楽3条7丁目    |
| ●網走市立郷土博物館          | 網走市桂町1-1-3    |
| ●浦河町立郷土博物館          | 浦河町字西幌別273    |
| ●帯広百年記念館            | 帯広市緑が丘2       |
| ●萱野茂二風谷アイヌ資料館       | 平取町字二風谷       |
| ●川村カ子トアイヌ記念館        | 旭川市北門町11丁目    |
| ●静内町アイヌ民族資料館        | 静内町真歌         |
| ●標津町歴史民俗資料館         | 標津町字伊茶仁278    |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字弟子屈276-1 |
| ●苫小牧市博物館            | 苫小牧市末広町3-9-7  |
| ●名寄市北国博物館           | 名寄市緑丘222      |
| ●函館市北方民族資料館         | 函館市末広町        |
| ●美幌博物館              | 美幌町字美禽253-4   |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館    | 平取町字二風谷       |
| ●北海道大学農学部附属博物館      | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道開拓記念館           | 札幌市厚別区厚別町小野幌  |
| ●北海道立アイヌ総合センター      | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館        | 網走市字塩見313-1   |
| ●幕別町蝦夷文化考古館         | 幕別町千住114-1    |
| ●室蘭市民俗資料館           | 室蘭市陣屋町2-4-25  |

北海道外

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ●稽古館             | 青森市大字浜田玉川207-1   |
| ●東北福祉大学芹沢鈺介美術工芸館 | 仙台市青葉区国見1-8-1    |
| ●東京国立博物館         | 東京都台東区上野公園13-9   |
| ●国立民族学博物館        | 吹田市千里万博公園10-1    |
| ●大阪府立近つ飛鳥博物館     | 大阪府河内郡河南町大字東山299 |
| ●大阪人権博物館         | 大阪市浪速区浪速西3-6-36  |
| ●天理大学付属天理参考館     | 天理市布留町1          |
| ●松浦武四郎記念館        | 三重県三雲町大字小野江383   |

アイヌ生活文化再現マニュアル  
彫る—小刀・山刀・盆—

---

2003年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171/FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

